

世界文化遺産部会における審議状況と今後の主な課題

1. これまでの審議状況

○ 世界文化遺産部会の調査審議について

本部会においては、平成 30 年度の世界文化遺産推薦候補として、審議対象となった「北海道・北東北の縄文遺跡群」及び「金を中心とする佐渡鋳山の遺産群」について審議を行った結果、平成 30 年 7 月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」を選定することを答申した。

その後、2020 年以降のユネスコ世界遺産委員会における登録審査が文化遺産、自然遺産あわせて各国 1 件に制限されることから、自然遺産の候補である「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」と「北海道・北東北の縄文遺跡群」について政府として検討した結果、最終的に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が今年度の推薦候補として決定された。

このような経緯を踏まえ、本部会においては、平成 31 年度における世界文化遺産推薦候補の選定に当たっては、

- ・「今年度の文化審議会の答申内容をそのまま引き継ぐことを基本とし、
 - ・来年度、「北海道・北東北の縄文遺跡群」について、進捗状況等の確認を行い、
 - ・最終的に来年度の本部会において、推薦候補を決定すること」
- を基本的な考え方として、平成 31 年 1 月に決定した。

(すなわち、平成 31 年度の推薦候補は、このような基本的な考え方に基づき、来年度、本部会において審議・決定されることとなる。)

2. 今後の課題

- 引き続き、世界遺産条約の実施に関する事項について調査審議を行う予定。